

容器包装の3Rをめぐる 課題と今後の施策

平成21年1月16日

環境省 廃棄物・リサイクル対策部
リサイクル推進室



環境省



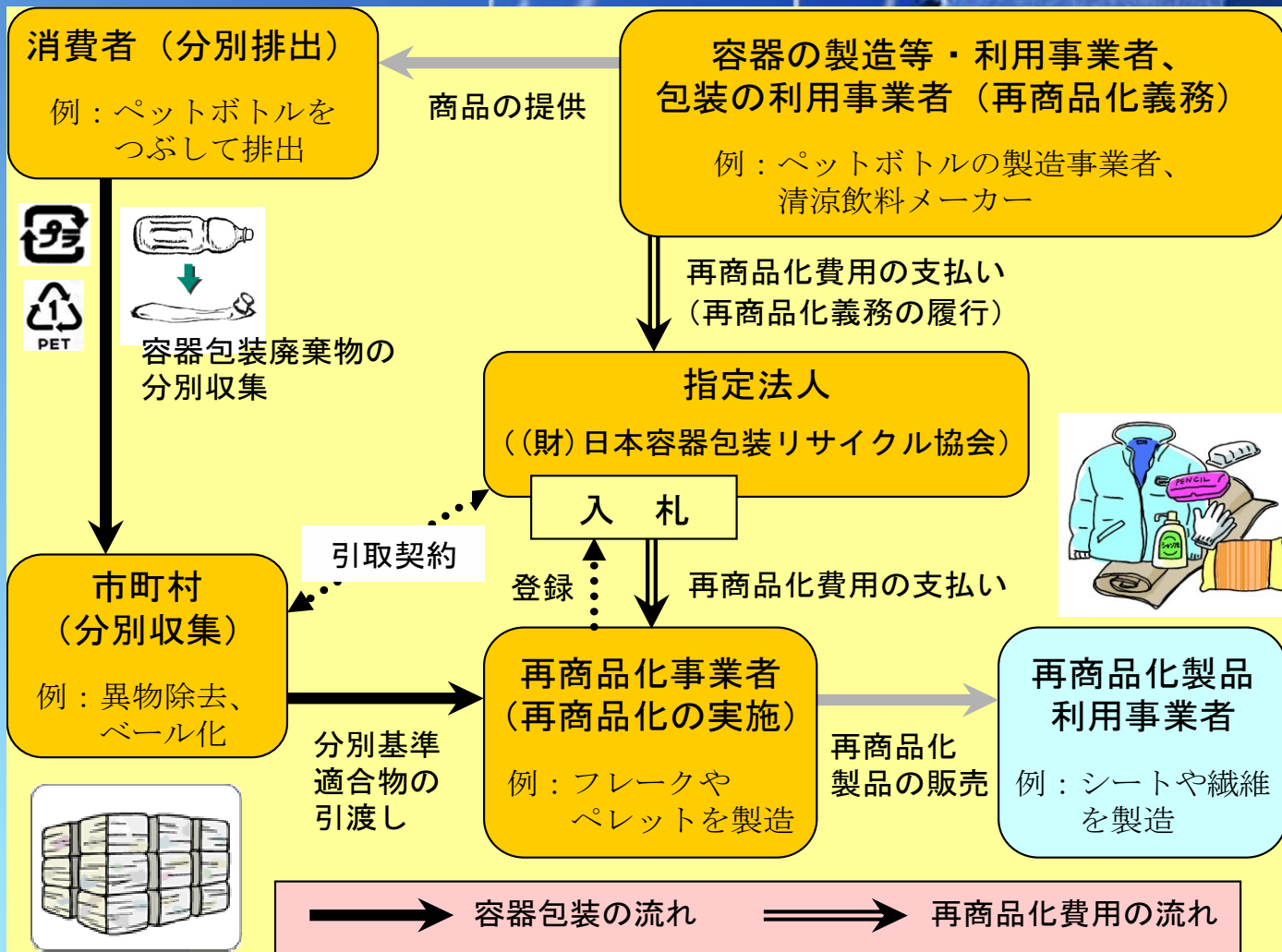
1

容器包装廃棄物の一般的な流れ *Reduce*

①消費者
(分別排出)

②市町村
(分別収集)

③事業者
(再商品化)

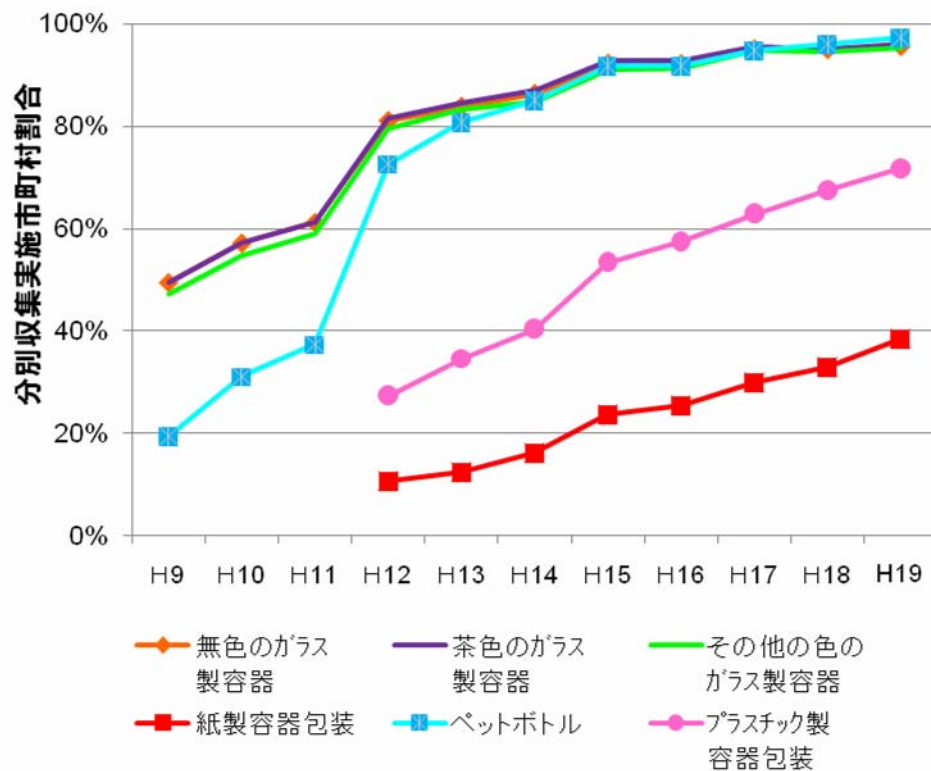


市町村における分別収集の取組状況

多くの品目で、高い分別収集実施割合。紙製容器包装、プラスチック製容器包装については、他の品目に比べ実施割合が低い。

全市町村に対する分別収集実施市町村の割合と推移（平成19年度）

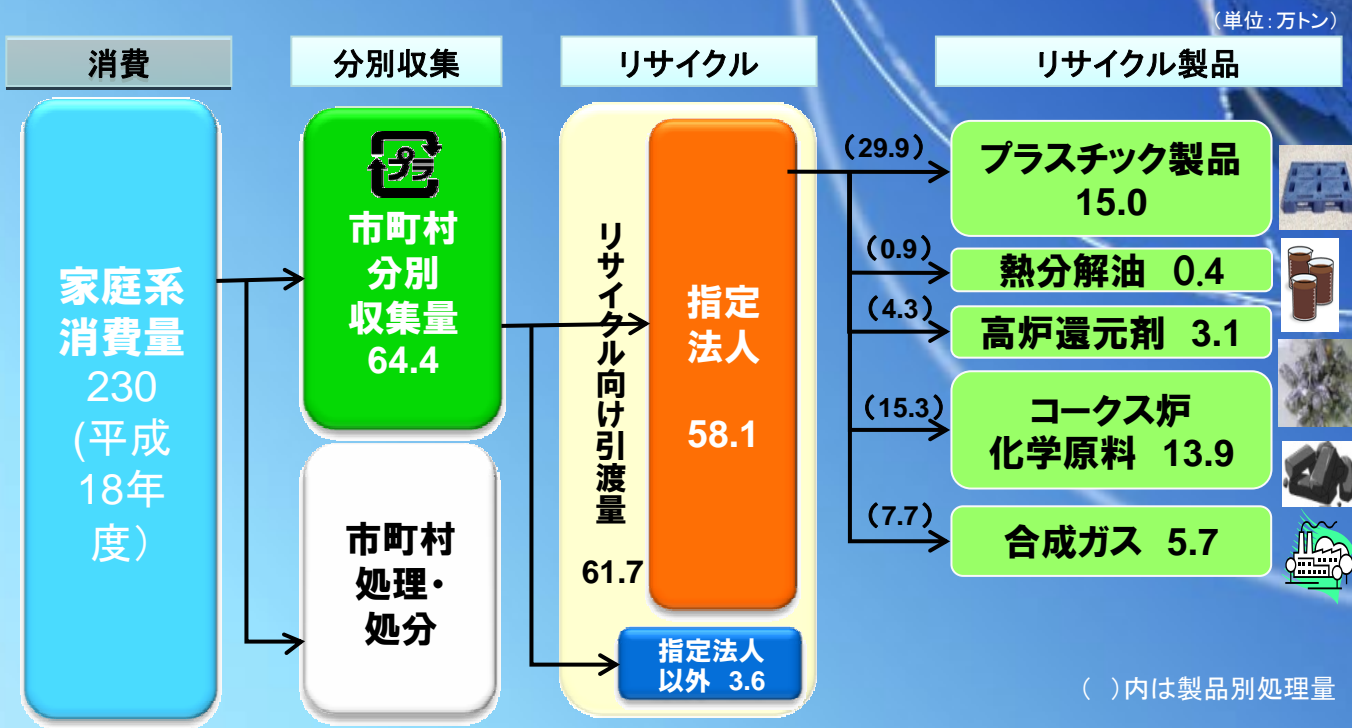
品目	実施割合(%)
無色のガラス製容器	95.6
茶色のガラス製容器	95.9
その他の色のガラス製容器	95.3
紙製容器包装	38.3
プラスチック製容器包装	71.8
(うち白色トレイ)	39.6
ペットボトル	97.2
スチール缶	98.8
アルミ缶	99.1
段ボール	89.6
紙パック	77.4



プラスチック製容器包装のリサイクルの高度化

分別排出や汚れの除去を徹底することにより、分別収集されるプラスチックの質を高めるとともに、プラスチック製容器包装に係る再商品化手法の見直しを行い、リサイクルの更なる合理化を促進。

プラスチック製容器包装の回収・再商品化の流れ（平成19年度）



<プラスチック製容器包装に係る再商品化手法の見直し>

- 一定の品質基準を満たす場合に限り、材料リサイクル手法を優先。
- 地域における連携協働モデル事業を実施。
- 関係各種体による容器包装3Rの取組の一層の進展。

()内は製品別処理量

プラスチック製容器包装の再商品化に伴う 環境負荷の削減効果について

プラスチック製容器包装については、様々な手法により再商品化が実施されていることから、プラスチック製容器包装の再商品化に伴う環境負荷削減効果のライフサイクルアセスメントによる分析(LCA分析)について、従前の研究成果も踏まえ、前提条件の精査による再商品化手法ごとの環境負荷削減効果の比較や、容器包装リサイクルによる日本全体での環境負荷削減効果について検討を実施。

再商品化手法ごとの 環境負荷削減効果

- 再商品化手法ごとの環境負荷削減効果の比較・優劣の判断には、
 - ・環境負荷を評価する範囲の設定
 - ・比較対象の設定などの点で、現時点においてはなお課題が多いことから、検討を継続。

容器包装リサイクルによる 日本全体での環境負荷削減効果

- 容器包装リサイクルを行わず焼却・埋立処理や廃棄物発電を行う場合と比較して、一定の効果を上げていることが分かった。
- 例えば、現状の再商品化量で、最終処分量削減効果は約10.4万トン、二酸化炭素排出削減効果は日本の廃棄物部門からの総排出量の最大約3%分に相当。

容器包装リサイクルのフローの 透明化等に関する検討会

容器包装のリサイクルについて消費者の信頼性を更に高めていくために、再資源化の流れの透明性の向上等に関する課題及び方策を検討する検討会を設置。

検討事項

○容器包装のリサイクルのフローの透明化に関して、以下の事項等について検討を行う。

- ・リサイクルの流れの実態の把握
- ・リサイクルの流れを透明化することが必要な範囲及びその方法
- ・容器包装リサイクル製品の一層の活用
- ・関係者の役割の在り方

○検討結果については、1～2年を目途に取りまとめを行う予定。

検討会の開催状況

- 検討会を、本年7月より2回開催。
- 第1回検討会後にプラスチック製容器包装の再商品化に関するアンケートを実施し、第2回検討会では、アンケート結果を踏まえた今後の検討課題について議論が行われた。

今後の進め方

- 来年夏までに中間取りまとめを行い、その後、実施できるものから速やかに実施。



ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会

さらなる循環型社会の形成を目指して廃棄物の発生抑制とより一層の環境負荷低減を図るため、「リユース」や「デポジット」の導入について検討する研究会を設置。

主な論点

- LCAの観点からのリユースとリサイクルの環境負荷の比較
- ペットボトルのリユースに対する消費者の需要製や経済性
- リターナブルペットボトルの選択と回収を確保するための方策その他の社会システムの在り方
- リターナブルペットボトルの販売・回収・運搬・保管・洗浄
- 食品衛生の観点からの安全性と、臭いや外観等の観点からの商品として品質

研究会の開催状況

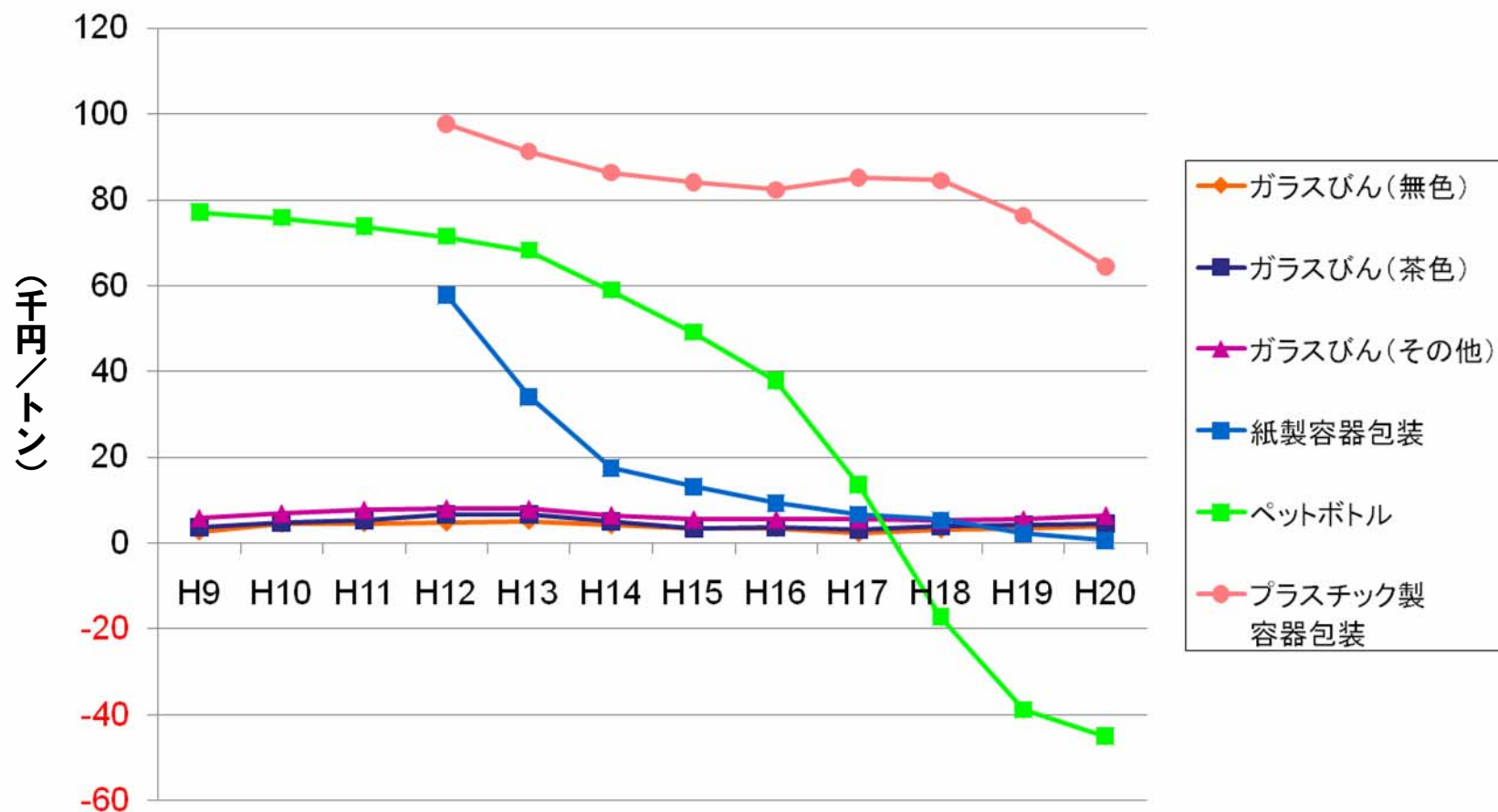
- 研究会を、本年3月より5回開催。
- 本年7月には、中間取りまとめを公表。中間取りまとめでは、ペットボトルのリユースに関する実証実験を行うべきとされている。

ペットボトルリユース実証実験の実施

- 中間取りまとめを踏まえ、本年8月30日より「ペットボトルリユース実証実験」を開始。
- 消費者の受容性や回収率、汚損ボトルの除去等について検証を行い、研究会において検討を進める予定。

再商品化事業者の落札単価

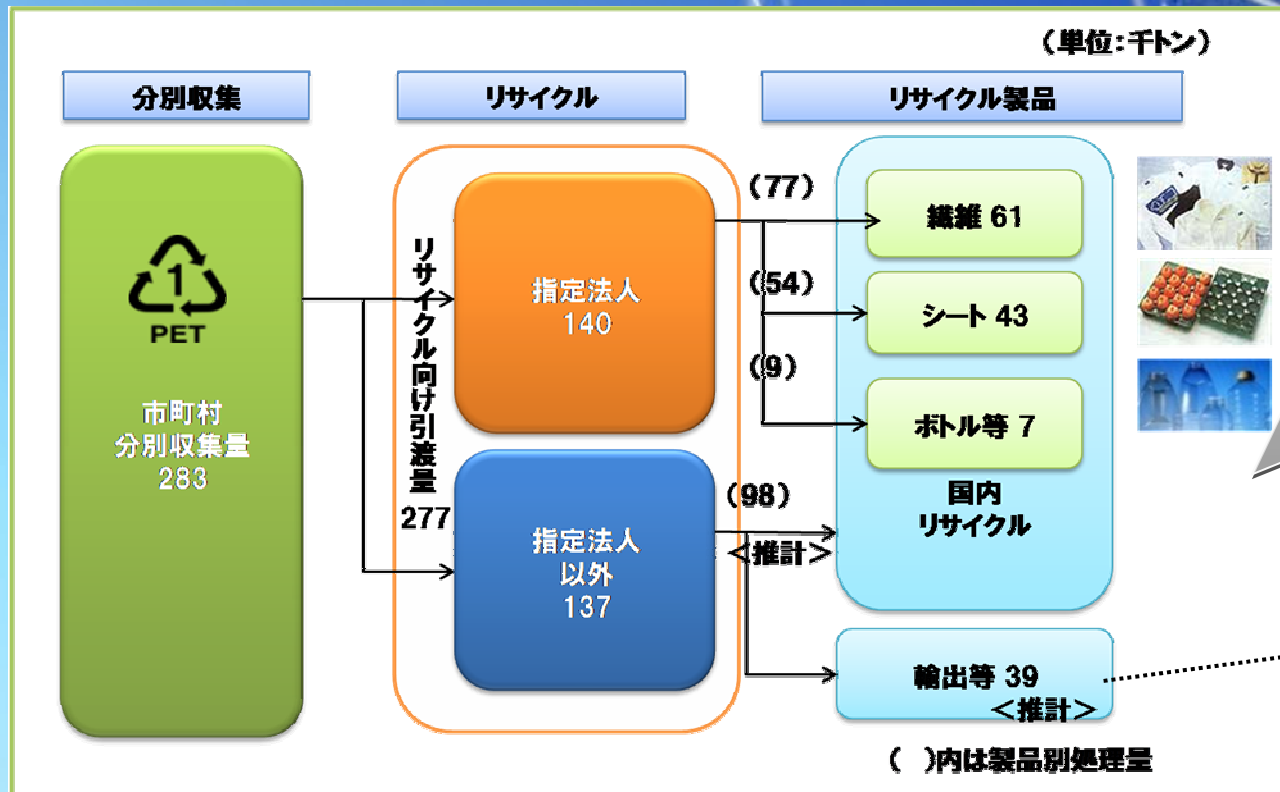
Reduce



廃ペットボトル市況の変化への対応①

昨年末の資源市場の急激かつ大幅な変動に伴い、廃ペットボトルを取り巻く状況が大きく変化したため、通常の運用にかかわらず柔軟に対応。

ペットボトルの回収・再商品化の流れ（平成19年度）



○指定法人に引き渡されると国内でリサイクルされる。

○指定法人以外の引渡は、国内リサイクル又は原材料として輸出。



ペットボトルから作られた詰め物を使用したと思われる中国製のぬいぐるみ

廃ペットボトル市況の変化への対応②

市況の変化

今般の市況の急落により、以下のような状況が生じる可能性が生じた。

- ①市町村で独自に売却などをする予定だった使用済ペットボトルの引取先が決まらず、保管施設に滞留。
- ②輸出されていた廃ペットボトルが国内で再商品化され国内流通が増加。国内でリサイクル製品の価格が大幅に下落。



対応

通常、1年に1度入札を実施し、市町村からの引取量や価格について決定しているが、年度ごとの運用にかかわらず、以下のように柔軟に対応した。

- ①従来独自処理を行っていた市町村を含め、指定法人への引き渡しの追加申込みを受け付け。
- ②指定法人とリサイクル事業者との間ですでに締結している今年度分の契約について、市況の急変に対応し年度途中の契約変更を容認。

容器包装廃棄物の3R推進事業 *Reduce*

法改正のほか、モデル事業、環境大臣賞などの施策を展開。

3R推進モデル事業

レジ袋の有料化に向けた地域協定やペットボトルの回収促進など、地域のモデルとなる事業の支援。

容器包装3R環境大臣賞

優良小売店・製造事業者の評価や地域連携の優良事例を表彰する制度を創設。

あなたに使って欲しいマイバッグ環境大臣賞

買い物の際の「マイバッグ運動」を更に推進するため、マイバッグを一般公募し、コンテストを実施。

容器包装廃棄物の3R推進事業

地域における容器包装廃棄物3R推進モデル事業

容器包装廃棄物の3Rを推進するモデル事業として、平成20年度は7事業を実施。

平成18年度採択事業実施地域

- ・東京都目黒区 ・京都府京都市(2事業) ・神奈川県大和市
- ・沖縄県那覇市 ・東京都新宿区 ・東京都杉並区
- ・神奈川県茅ヶ崎市 ・大阪府池田市 ・兵庫県神戸市

平成19年度採択事業実施地域

- ・宮城県仙台市 ・東京都世田谷区 ・神奈川県茅ヶ崎市
- ・愛知県名古屋市 ・岐阜県揖斐川町 ・京都府京都市

平成20年度採択事業実施地域

- ・新潟県三条市 ・東京都千代田区 ・神奈川県小田原市
- ・愛知県名古屋市 ・岐阜県揖斐川町 ・京都府京都市(2事業)

